

都市再生整備計画 事後評価シート
泉大津市東部地区

令和8年3月

大阪府泉大津市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	泉大津市		地区名	東部地区			面積	約31.2ha		
交付期間	令和3年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	2,380.6百万円	国费率	50.0%				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(三十合池西通線)、公園(三十合池公園)、誘導施設 医療施設(病院)										
		提案事業	-										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	-		-			-					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(三十合池南通線)		地元からの要望もあり、回遊性および安全性の向上の為			影響なし					
		提案事業	-		-			-					
	交付期間の変更	当初	R03～R05		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
	変更	R03～R06											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	医療体制に対する満足度	%	70.9	H30	80.0	R7	-	57.7	△	あり	令和6年度の数値は、新型コロナウイルスの影響に加え、新病院の開院前ということもあり、平成30年度の従前値と比較して大幅に低下している。しかし、令和7年度に新病院が開院した後の評価値は令和6年度を上回っており、改善傾向が見られる。新病院は開院から間もないため、今後、利便性・機能・体制に関する周知が進むことで、医療体制に対する満足度の回復が期待される。 また、回答者が住んでいる小学校区ごとでは、都市再生整備計画の区域に該当する楠小学校区と穴師小学校区は、いずれも目標値に達成していないが、目標値との差は他の地域よりも小さい。大幅に減少した令和6年度と開院後の令和7年度をみると、この2つの地域は他の地域よりも大きく増加している。	R08年度
指標2	三十合池公園の休日年間グラウンド利用率	%	37.1	R1	44.0	R6	-	31.7	△	あり	新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛の影響により、コロナ禍以前の従前値と比較して数値は低下している。ただし、令和4年度から令和6年度(評価年度)までの3年間の推移を見ると、上昇傾向が見られ、近年は改善が進んでいるといえる。 また、三十合池公園のグラウンドは野球での利用に限られているが、スポーツの多様化により、野球をする人が減少していることもグラウンド利用率を減少させる原因として考えられる。 補足として、アンケートで「快適に利用できる公園があると思う」と回答した割合を小学校区ごとに分析した結果、従前値との差が最も増加したのは浜小学校区であり、次いで三十合池公園のある楠小学校区である。これは、三十合池公園で園路やトイレを整備したことによって、快適に利用できるようになったと考えている可能性がある。	R08年度	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4) 定性的な効果発現状況													

5)実施過程の評価	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	モニタリング	実施なし	—	—	—
	官民連携による取組	・住民参加の公園整備マスタープラン策定に関するワークショップの実施 ・府中病院と市立病院との病床機能の再編とネットワーク化に係る基本合意書の締結	●	●	住民参加については、今後も地域住民や関係団体との連携を継続的に図り、地域課題の共有と協働による解決を目指す。 医療体制については、今後も地域における持続可能な医療提供体制の実現に取り組む。
	持続的なまちづくり体制の構築	三十合池公園の緑化活動について、「泉大津市みどりのまちづくり応援事業に関する協定書」を締結した。	●	●	緑化や清掃などの緑化活動を行うことにより地域に愛されるきれいな公園・道路づくりを実現する。

様式2-2 地区の概要

泉大津市東部地区(大阪府泉大津市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
大目標 『住めば誰もが輝くまちをめざし、健康で心豊かに暮らせるまちづくりを行う。』	医療体制に対する満足度	単位：%	70.9	H30	80.0	R7	57.7	R7
目標1 地域医療体制の充実による安全安心のまちづくりを行う。	三十合池公園の休日年間グラウンド利用率	単位：%	37.1	R1	44.0	R6	31.7	R6
目標2 スポーツ振興施設の充実により魅力ある交流活動とともに健康増進活動の促進を図る。								



基幹事業(誘導施設:医療施設)
病院(泉大津急性期メディカルセンター)



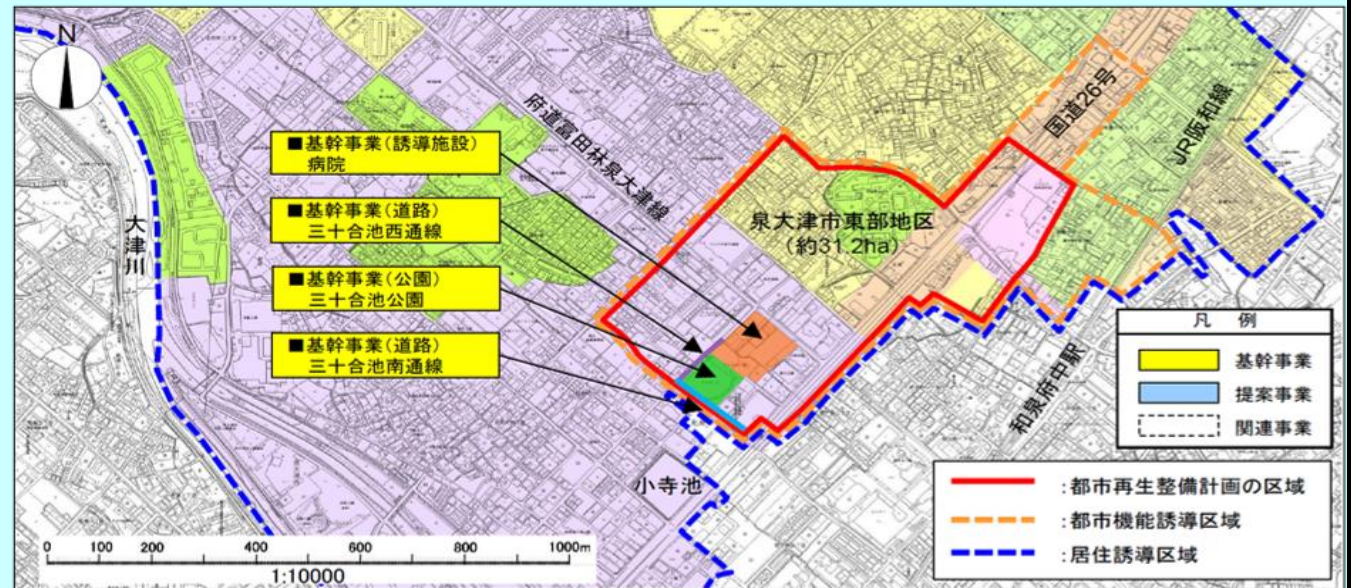
基幹事業(道路)
三十合池西通線



基幹事業(公園)
三十合池公園



基幹事業(道路)
三十合池南通線



まちの課題の変化

- ・泉大津市公園整備マスタープランのもとに、三十合池公園の遊びの機能を周辺の公園に集約統合を行い、外周囲路の整備をしたことで、周辺住民のみならず病院来訪者等の憩いの場としても活用されている。
- ・公共施設周辺の道路を整備したことによって、歩行者や車両の通行における安全性が向上した。
- ・泉大津急性期メディカルセンターを和泉府中駅周辺に整備したことにより、府中病院との徒歩圏内の連携が可能となり、市域を越えた医療機関同士の連携を強化できた。
- ・泉大津急性期メディカルセンター前に南海バスの停留所の新設や無料送迎バス、ふれあいバスのルート拡充により、公共交通機関によるアクセスが改善され、利便性が向上した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・整備した公園施設は、地域住民等による利活用を促進する取組を行うとともに、利用しやすい環境とサービス提供に向けた維持管理を行う。さらに、継続的なモニタリングにより課題を把握し、必要に応じて改善を図る。
- ・都市機能誘導区域では、広域的な拠点として公共・民間施設の再編および適正な配置を検討し、地域全体の都市機能を強化し、活性化を図る。
- ・新病院の利便性・機能・体制についてホームページ等で周知を行い、現在も実施している市民講座等を通じて市民との接点を増やし、病院の役割に対する理解を促進することで、医療体制に対する満足度の向上を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値	●		指標1の目標年度：R06	指標1の目標年度：R07	泉大津急性期メディカルセンターが令和6年12月に開院したが、変更前の目標年度は病院が開院する前であるため、令和7年度の開院後の指標を用いる。
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

(事業費：百万円)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	三十合池西通線	39.0	L=140m	0.75	L=140m	第2回変更時(R4/2月)に事業内容変更。 事業費減。	影響なし	●	
	三十合池南通線	—	—	12.8	L=200m	第2回変更時(R4/2月)に追加。	影響なし	●	
公園	三十合池公園	47.0	A=0.9ha	47.0	A=0.9ha	なし	—	●	
誘導施設 医療施設	病院	12,515	A=24,000㎡	15,441	A=23,860㎡	事業費増。 病院建物や駐車場などの設計変更。	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事業活用調査	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
まちづくり 活動推進事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	医療体制に対する満足度	%	—	—	70.9	H30	80.0	R7	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	●
									事後評価	確定 ●	見込み	57.7	事後評価	△	
指標2	三十合池公園の休日年間グラウンド利用率	%	—	—	37.1	R1	44.0	R6	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	●
									事後評価	確定 ●	見込み	31.7	事後評価	△	
指標3	—	—	—	—	—	—	—	—	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	—
									事後評価	確定 ●	見込み	—	事後評価	—	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	令和6年度の数値は、平成30年度の従前値と比較して大幅に低下している。しかし、令和6年12月に新病院が開院したことを踏まえると、令和7年度の評価値は令和6年度より上昇しており、近年の傾向よりは改善しているといえる。(令和6年度52.9% 令和7年度57.7%)	特になし
指標2	新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛の影響により、コロナ禍以前の従前値と比較して数値は低下している。一方で、令和4年度から令和6年度(評価年度)にかけての3年間の推移を見ると上昇傾向が見られ、近年の傾向よりは改善しているといえる。(令和4年度29.6% 令和5年度 33.4% 令和6年度31.7%)	特になし
指標3	—	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、 課題等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリ ング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

病院関係者及び病院利用者の憩いの場として一定の利用が見られる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市民参加の公園整備マスタープラン策定に関するワークショップの実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】4回 【実施時期】平成30年10月20日、11月10日、12月8日、令和元年1月27日 【実施結果】基本計画の策定にあたって開催した全4回の市民ワークショップでは、公園整備マスタープランの方針に関わる意見が多くあがり、これらをまとめた基本的な考え方を第4回で提示し、参加者の意向を反映することができた。	今後も地域住民や関係団体との連携を継続的に図り、地域課題の共有と協働による解決を目指す。
府中病院と市立病院との病床機能の再編とネットワーク化に係る基本合意書の締結	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】1回 【実施時期】令和元年12月25日 【実施結果】泉大津市と社会医療法人生長会は、地域における持続可能な医療提供体制の実現に向けた連携体制の充実・強化について合意した。	今後も地域における持続可能な医療提供体制の実現に取り組む。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
「板原公園緑化コミュニティ」と泉大津市で協定を締結	予定どおり実施した	● 三十合池公園の緑化活動について、「泉大津市みどりのまちづくり応援事業に関する協定書」を締結した。	板原公園緑化コミュニティ (祭礼団体が母体の団体)	緑化や清掃などの緑化活動を行うことにより地域に愛されるきれいな公園・道路づくりを実現する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内会議	都市づくり政策課 計画係 都市づくり政策課 公園みどり係 土木課 管理工務係 市立周産期小児医療センター 事務局 総務課	第1回: 令和7年9月12日	都市づくり政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1				指標2				
指標名		医療体制に対する満足度				三十合池公園の 休日年間グラウンド利用率				
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	要因の 分類	指標改善 への 貢献度	総合所見	要因の 分類	指標改善 への 貢献度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	道路(三十合池西通線)		数値目標を達成していないので記載なし				III			
	道路(三十合池南通線)									
	公園(三十合池公園)									
	誘導施設 医療施設(病院)									
提案事業										

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用			
-------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2					
指標名		医療体制に対する満足度			三十合池公園の 休日年間グラウンド利用率					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(三十合池西通線)	△	令和6年度の数値は、新型コロナウイルスの影響に加え、新病院の開院前ということもあり、平成30年度の従前値と比較して大幅に低下している。しかし、令和7年度に新病院が開院した後の評価値は令和6年度を上回っており、改善傾向が見られる。新病院は開院から間もないため、今後、利便性・機能・体制に関する周知が進むことで、医療体制に対する満足度の回復が期待される。 また、回答者が住んでいる小学校区ごとでは、都市再生整備計画の区域に該当する楠小学校区と穴師小学校区は、いずれも目標値に達成していないが、目標値との差は他の地域よりも小さい。大幅に減少した令和6年度と開院後の令和7年度をみると、この2つの地域は他の地域よりも大きく増加している。	Ⅲ	△	新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛の影響により、コロナ禍以前の従前値と比較して数値は低下している。ただし、令和4年度から令和6年度(評価年度)までの3年間の推移を見ると、上昇傾向が見られ、近年は改善が進んでいるといえる。 また、三十合池公園のグラウンドは野球での利用に限られているが、スポーツの多様化により、野球をする人が減少していることもグラウンド利用率を減少させる原因として考えられる。 補足として、アンケートで「快適に利用できる公園があると思う」と回答した割合を小学校区ごとに分析した結果、従前値との差が最も増加したのは浜小学校区であり、次いで三十合池公園のある楠小学校区である。これは、三十合池公園で園路やトイレを整備したことによって、快適に利用できるようになったと考えている可能性がある。	Ⅲ			
	道路(三十合池南通線)	△								
	公園(三十合池公園)	—								
	誘導施設 医療施設(病院)	△								
提案事業										

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能なる要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能なる要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能なる要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能なる要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>新病院は開院から1年未満であるため、現時点ではその利便性・機能・体制が十分に認識されていない可能性がある。府中病院、市民病院、新病院をそれぞれ特化した機能を持つ病院として再編したことによる、機能・役割分担の利点等について、市民に丁寧な説明を行い、理解を促進する。今後、新病院に対する認識が進むことで、医療体制に対する満足度が向上することが期待される。新病院では市民講座などを開催しており、病院を知ってもらう機会を作るなどの活動を行っている。</p> <p>また、新病院への利便性を向上するために、新病院の周辺だけでなく、新病院から離れた地域を含めた市全域でも利用しやすいように、無料送迎バスやふれあいバスの運行ルート及び運行時刻を変更していることを、市民に周知し利用を促進することで、市全域で満足度が増加することが期待できる。</p> <p>なお、新病院開院後に実施されたアンケート調査は1回のみであることから、今後も継続的かつ定期的に調査を実施し、医療体制に対する満足度の推移をモニタリングする。</p>	<p>公園の適切な維持管理および環境整備を推進することで、地域住民が積極的に利用したくなる魅力的な公園の実現を図る。</p> <p>三十合池公園のグラウンドを野球以外でも利用できるように、マウンドの損傷等を考慮し、マウンド以外の場所での利用方法を含めて協議・検討する。</p>
------------------	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内会議	都市づくり政策課 計画係 都市づくり政策課 公園みどり係 土木課 管理工務係 市立周産期小児医療センター 事務局 総務課	第1回: 令和7年9月12日	都市づくり政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市域にある各公共施設などが間もなく更新時期となり、今後、将来人口などを踏まえ適正に、集約統合などを行う必要がある。	「泉大津市公園整備マスタープラン」では、人口減少を踏まえた公園・遊具の維持管理のあり方を議論し、複数の公園を対象に機能の集約、分担に関する市民意見を反映した。今回の整備では、板原1号公園に遊具を充実させ、三十合池公園をスポーツ(野球)に特化した公園として整備し、休憩スペースも組み合わせることで、ワークショップでの意見を具体化した。	—	—
将来の医療需要等を踏まえた医療提供体制の構築が必要である。	府中病院と市立病院との病床機能の再編とネットワーク化により、地域における持続可能な医療提供体制の実現に向けた連携の構築ができた。	新病院は開院から1年未満であるため、現時点では利便性・機能・体制が十分に認識されていない可能性があり、医療体制に対する満足度が目標に達していない。	
充実した医療体制を保持するため、医療施設そのものの規模やアクセス面においても改善が必要である。	泉大津急性期メディカルセンター前に南海バスの停留所が新設された。南海本線泉大津駅およびJR和泉府中駅からは無料送迎バスが運行している。さらに、市のふれあいバスも同センター前に停車するようにルートが拡充された。これらにより、公共交通機関によるアクセスが改善され、利便性が向上した。	—	
市民の健康増進を図るため、スポーツ施設や憩いを感じる施設を充実させる必要がある。	病院からアクセスしやすい場所に周遊園路を整備したことで、周辺住民のみならず病院来訪者等の憩いの場としても活用されている。	三十合池公園のグラウンドが野球の利用に限られている。	
限られた財源の中において魅力ある公園整備を行うため、効率的・効果的な再整備が必要である。	既存の公衆トイレについては、売店や事務所の機能を備えるなどの多機能化を実施した。	—	
和泉府中駅周辺(当該地区)は、駅自体は、和泉市に位置するが、本市との市境付近にあるため、今後の持続可能なまちづくりに向けては、都市機能誘導区域として充実を図る必要がある。	泉大津急性期メディカルセンターを和泉府中駅周辺に整備したことにより、隣接する和泉市に所在する府中病院との距離も近く、それぞれ徒歩圏内に位置することから、市域を越えた医療機関同士の連携を強化できた。	東部地区において、都市機能誘導区域を和泉市との関連性を踏まえつつ、広域的な拠点として、地域全体の都市機能の強化と活性化を図る必要がある。	
公共施設周辺は、安全安心に移動可能となる道路整備を行う必要がある。	三十合池西通線の整備に加え、三十合池南通線の整備も行ったことで、歩行者や車両の通行における安全性が向上した。	—	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備した公園施設の利活用促進・維持管理	整備した施設について、地域住民等の利活用を推進する取組を行うとともに、利用しやすい環境、サービス提供に向けた維持管理を行う。	・公園やグラウンド等の利用促進・維持管理 ・継続的なモニタリング
	—	—	—
	—	—	—

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	都市機能誘導区域の充実を図る	・広域的な拠点として、地域全体の都市機能の強化と活性化を図る。	・公共、民間施設の再編や適正な配置を検討する。
	医療体制に対する満足度の改善	・府中病院、市民病院、新病院をそれぞれ特化した機能を持つ病院として再編したことによる、機能・役割分担の利点等について、市民に丁寧な説明を行い、利便性・機能・体制について認識してもらう。 ・新病院ができたことによる医療体制の充実を実感してもらう。	・ホームページなどで利便性・機能・体制について周知を行う。 ・現在も行っている市民講座などを通じて市民との接点を増やし、病院の役割への理解を促進する。
	三十合池公園のグラウンドの多様化	・野球以外の利用によってマウンドが損傷する恐れがあるため、マウンド以外の場所の活用方法などについて、今後、指定管理者とともに協議する。	・三十合池公園のグラウンドを指定管理している業者との協議・検討を行う。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	医療体制に対する満足度	%	70.9	H30	80.0	R7	確定 ●	57.7	△	あり	●	R08年度	東大津市に住む16歳以上の市民2,000人を対象としたアンケート調査において、『医療の体制が充実していると思う』という設問に対し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答割合を確定値とする。	—
							見込み			なし				
指標2	三十合池公園の休日年間グラウンド利用率	%	37.1	R1	44.0	R6	確定 ●	31.7	△	あり	●	R08年度	グラウンド利用実績データに基づき、土日祝におけるグラウンドの利用可能時間に対する実際の利用時間の割合を確定値とする。	—
							見込み			なし				
指標3							確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標1							確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標2							確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標3							確定			あり				
							見込み			なし				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	社会情勢によって目標値を変更する等、臨機応変に対応する必要がある。 本事業で使用しているアンケート調査は毎年度の実施ではないものの、従前値と評価値の間に数回実施しており、医療体制に対する満足度に加え、さまざまな設問を含んでいるため、他の計画にも活用可能である。
	うまくいかなかった点	新型コロナウイルス流行の影響もあり、指標である医療体制に対する満足度および休日年間グラウンド利用率は、目標値に達しなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	計画策定の際に学識経験者に意見を聴取するなどにより、指標の妥当性や整備対象との整合性を確保することが、より効果的な評価につながると考える。
	うまくいかなかった点	公園整備に関する指標として休日年間グラウンド利用率を用いたが、実際にはグラウンド本体の整備は行っておらず、周辺部のみの整備であったため、指標としての妥当性に課題があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	公園整備については、市民参加型のワークショップを通じて策定された公園整備マスタープランに基づいて実施した。	事業実施にあたっては、住民の参画の機会を確保し、住民意見を反映しながら進めていくことが重要である。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	本事業において採用した指標は、総合計画に基づくアンケート調査及びグラウンド予約システムの利用データである。アンケート調査は毎年度の実施ではないものの、従前値と評価値の間に一定の数値が整理されており、指標の推移を把握する上で有効であった。	定期的なデータ取得体制を整えることで、より精度の高い評価が可能となる。また、アンケート調査や予約システムといった既存の仕組みを活用することで、効率的かつ継続的なモニタリングが実現できる。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

特になし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和7年10月1日～ 令和7年10月15日	令和7年10月1日～ 令和7年10月15日	担当課へ持参、FAX、 電子メール	都市政策部 都市づくり政策課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	窓口閲覧	令和7年10月1日～ 令和7年10月15日	令和7年10月1日～ 令和7年10月15日		

住民の意見	特になし。
-------	-------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	久 隆浩(近畿大学 名誉教授) 熊谷 樹一郎(摂南大学 教授) 谷口 真紀(関西学院大学 准教授)	令和7年11月5日	都市政策部 都市づくり政策課	—	独自に設置
その他の委員	—				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標については2つとも未達成であったが、近年の傾向よりは改善しているため、目標達成度は三角と判定したということが妥当であると認められた。
	実施過程の評価	・公園整備マスタープランに関するワークショップで出た意見や、今回の整備で三十合池公園の整備に反映した内容について、事後評価シートにも記載すべきという意見があった。
	効果発現要因の整理	・病院が新設、病院間の連携が進んだことを踏まえ、医療従事者の満足度を評価することも考えられるとの意見があった。 ・三十合池公園のグラウンドは野球利用に限定されている点が課題であるとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表について妥当であると認められた。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・新病院について、連携する3病院をキーとして今後の地域医療のあり方を検討していく必要があるという意見があった。 ・泉大津市東部地区はJR阪和線泉府中駅の駅勢圏に含まれるため、和泉市との連携は不可欠であるという意見があった。
	フォローアップ	・今回の整備は外周路のみであるため、フォローアップの数値を取得する際に、他に効果的な指標がないかを検討すべきであるという意見があった。
	その他	・病院と公園が隣接しているという立地を活かし、両者が単独で機能するだけでなく、相互に連携した活用ができればよいという意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・事業計画段階から委員会等で事業内容や指標について意見を集約しておけば、評価時の齟齬を防ぐことができる。他市では事前に意見を聴取する機会を設けている例もあり、今後はそのような運用が望ましいという意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---